

子供のうちから

プレゼン磨け

少子化が加速し、養育費の多様化が進む中、将来役立つ「プレゼンテーション能力」を子供のころから育成するユニークな塾が相次いで登場している。対話重視のアクティブ・ラーニングを取り入れた、読書の個別指導で感想を引き出したりと、子供が自由に意見を述べられる環境や機会を提供している。

(磯原恵美、写真も)

東京都港区の「子ども未来キヤリア塾」。児童3人が電子黒板に映し出された1枚の写真を眺めていた。髪や肌の色が異なる複数の路上通手

ユニーク塾 大人気

駆け出す競争の写真は、昭和59年の東京五輪でホスターに採用されたものの、マークなどを晒している。マークのホスターとは分らない。

「これは何のホスターで、どんなメッセージが込められているんだろ？」。講師の岩崎裕太さんが質問すると「オリンピック」「世界陸上」という声に続き、ある児童が「さうさ」と答えた。「人種差別をしない」と思う。いろんな人の通手や平等に走っているから」。岩崎さんは目を細めて「なるほどう、そうだね」とうなずいた。

■自由に発言、楽しい」

同塾のカリキュラムには



「プレゼンテーション能力」ニング」を採用している。

や「創造力」「批判的思考」などのビジネススキルが並び、授業では対話、協働作業といった「アクティブ・ラー

対話型授業で活発議論、発言力伸ばす

「小学生のころから論理的な意見を言える、自由に発言できるのがいい」という。読書感想文を講師がマンツーマンで聞き出し、表現力を伸ばそうとする塾もある。東京都文京区にある「RISU塾」はタブレット端末による算数指導と、読書の個別指導に力を入れている。科学者や医国など美社会で活躍している人々が子供時代に影響を受けた本など約130冊を課題図書に選定。

最大の特徴は、講師と生徒が印象に残った場面などについて話し合うことだ。「この場面、先生はドキドキしたけど、どう思った？」と対話を促す。同塾を運営する「RISU Japan」取締役の加藤エルテス聡志さんは「人に説明することを意識してしまおう」と思っていた。読書は深い理解につながる。対話が表現力やプレゼンテーションスキルの基礎になるが意見を言える、自由に発言できるのがいい」という。

読書感想文を講師がマンツーマンで聞き出し、表現力を伸ばそうとする塾もある。東京都文京区にある「RISU塾」はタブレット端末による算数指導と、読書の個別指導に力を入れている。科学者や医国など美社会で活躍している人々が子供時代に影響を受けた本など約130冊を課題図書に選定。

最大の特徴は、講師と生徒が印象に残った場面などについて話し合うことだ。「この場面、先生はドキドキしたけど、どう思った？」と対話を促す。同塾を運営する「RISU Japan」取締役の加藤エルテス聡志さんは「人に説明することを意識してしまおう」と思っていた。読書は深い理解につながる。対話が表現力やプレゼンテーションスキルの基礎になるが意見を言える、自由に発言できるのがいい」という。

「アクティブ・ラーニング」教師が一方的に教えるのではなく、児童生徒が議論や発表などを通じて積極的に授業に参加する学習手法。子供が課題探究など能動的に学習し考え方を身に付けることを目指す。平成27年度から順次実施される次期学習指導要領で全教科に導入される。

示した最低限の学習内容や、教育目標などを示した教育課程の基盤で、約10年ごとに改定される。教科書作成や、内容周知のため、告示から企画実施まで3～4年程度の移行期間を設ける。現行の学習指導要領は、小学校が平成27年度、中学校が24年度、高校が25年度から全面実施される。次期学習指導要領は22年度から順次実施される。

子供の発言力を伸ばす試みは、学校教育でも取り入れられている。現行の学習指導要領には「異動活動の充実」が盛り込まれており、国語を中心に討論などの機会を増やす。平成27年度から実施される次期学習指導要領では、さらにアクティブ・ラーニングが導入され、子供同士の話し合いの機会が増える。

塾業界にもこうした流れが出てきたことに、ベネッセ教育総合研究所の吉本真代研究員は「一朝一夕には身につかない。読書・議論の力を、小さいころから身につけておきたい」というニーズが背景にあるのではないかと分析。子供の学習には知識の習得と活用の両方が必要だ」と指摘している。